

公立・公的病院の具体的対応方針の再検証に係る
対応について【東濃圏域】

1 具体的対応方針の再検証が必要とされた公立・公的病院について

◆概要

- ・厚生労働省における分析の結果、一定の基準に合致した公立・公的医療機関等の具体的対応方針が、真に地域医療構想の実現に沿ったものとなっているか再検討を行うこととなった。（令和2年1月17日付けで厚生労働省から都道府県に対して再検証要請通知）
- ・県内では、以下の9病院が該当。

	病院名	二次医療圏	所在地	該当項目
1	岐北厚生病院	岐阜	山県市	隣接
2	羽島市民病院	岐阜	羽島市	隣接
3	西美濃厚生病院	西濃	養老町	隣接
4	国保白鳥病院	中濃	郡上市	実績
5	坂下病院	東濃	中津川市	実績
6	多治見市民病院	東濃	多治見市	隣接
7	東濃厚生病院	東濃	瑞浪市	隣接
8	市立恵那病院	東濃	恵那市	隣接
9	飛騨市民病院	飛騨	飛騨市	実績

【該当項目】

実績：診療実績※1が特に少ない。

※1 がん、心疾患、脳卒中、救急、小児、周産期、災害、へき地、研修派遣機能の9領域全ての診療実績

隣接：構想区域内に、一定数以上の診療実績※2を有する医療機関が2つ以上あり、かつ、お互いの所在地が近接※3している。

※2 がん、心疾患、脳卒中、救急、小児、周産期の6領域全ての診療実績

※3 自動車での移動時間が20分以内の距離

【再編統合】

「再編統合」には、ダウンサイジング、機能の分化・連携、集約化、機能転換・連携等も含まれる。

2 国の再検証要請への対応について

【「類似かつ近接」病院】

①～④について医療機関での検討を踏まえ、その結果を各圏域地域医療構想等調整会議で協議。

- ①2025年を見据えた自医療機関の役割の整理
- ②分析対象領域（6領域※1）ごとの医療機能の方向性（機能縮小等）
- ③4機能別の病床の変動
- ④圏域全体の、6領域ごとの医療機関の役割分担の方向性等2025年の医療提供体制



多治見市民病院、東濃厚生病院及び市立恵那病院の①～③の検証結果は3～5ページのとおり。

再検証対象病院以外の公立・公的病院における上記①及び③について、参考資料1-1にて整理。

④について、参考資料1-2にて整理。

【診療実績が特に少ない病院】

①～③について医療機関での検討を踏まえ、その結果を各圏域地域医療構想等調整会議で協議。

- ①2025年を見据えた自医療機関の役割の整理
- ②分析対象領域（9領域※2）ごとの医療機能の方向性（機能縮小等）
- ③4機能別の病床の変動



東濃圏域 該当なし

※1 6領域：がん、心疾患、脳卒中、救急、小児、周産期

※2 9領域：がん、心疾患、脳卒中、救急、小児、周産期、災害、へき地、研修派遣機能

3 多治見市民病院における検証結果について

①2025年を見据えた自医療機関の役割の整理

- ・ 県立多治見病院をはじめとした近隣医療機関との連携を深め、今後進む高齢社会に対応すべく高齢者の救急医療（肺炎、感染症等）を担い、二次医療の受入れ先として地域医療の確保を担う。
- ・ 回復期リハビリテーションの稼働率を維持して重症度の緩和、在宅復帰率の向上を図る。

②分析対象領域（6領域）ごとの医療機能の方向性（機能縮小等）

- ・ 厚労省分析領域における現状及び今後の見込みは以下のとおり。

領域	現 状	今後の見込み、予定
がん	<ul style="list-style-type: none"> ・ 診療実績あり（消化器・呼吸器・乳腺）。 ・ 放射線療法は同系列病院、近隣病院へ紹介。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後も同系列病院、近隣病院と連携する。
心筋梗塞等の 心血管疾患	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昼間の時間帯以外は近隣病院へ搬送依頼。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後も同様の対応予定。
脳卒中	<ul style="list-style-type: none"> ・ 対応不可のため、近隣病院に搬送依頼。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 同上
救急医療	<ul style="list-style-type: none"> ・ 二次救急受入れの役割を担っている。（月間約160件） ・ 三次救急の受入れは近隣病院へ依頼。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者の救急対応、二次救急を担当し、高度急性期医療の近隣病院とすみ分けを実施。 ・ 年間2,000件以上の救急搬送受入れ見込み。
小児医療	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外来（9:00～17:00）については365日対応。 ・ 夜間救急は近隣病院に紹介。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後も同様の対応予定。
周産期医療	<ul style="list-style-type: none"> ・ 診療実績なし。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後、通常分娩のみを扱う産科を開設予定。 ・ ハイリスク分娩への対応は近隣病院に依頼。

- ・ 現状の病床数及び2025年の病床数は以下のとおり。

急性期：	198床	→	198床（±0）
回復期：	50床	→	50床（±0）
休棟等：	2床	→	2床（±0）
計：	250床	→	250床（±0）

4 東濃厚生病院における検証結果について

①2025年を見据えた自医療機関の役割の整理

- ・土岐市立総合病院と再編統合（400床規模で1病院化）に向けて具体的協議中。
 ※令和元年度には「東濃中部の医療提供体制検討会」において、新病院の建設位置は中間地点を基本とし、経営手法は土岐市・瑞浪市による公設、厚生連による民営とすることを決定。（R3.1.22重点支援区域に指定）
- ・現在は、設置主体となる公的機関の設置に向け、土岐市・瑞浪市・有識者（厚生連含む）による「病院事業一部事務組合設立準備会」において、具体的協議中。

②分析対象領域（6領域）ごとの医療機能の方向性（機能縮小等）

- ・厚労省分析領域における現状及び今後の見込みは以下のとおり。

領域	現 状	今後の見込み、予定
がん	<ul style="list-style-type: none"> ・消化器は、内科・外科専門医により自院にて対応。 ・呼吸器は、内科専門医による治療を実施、外科的手術は他院との連携にて対応。 ・放射線治療は未実施のため、他院との連携にて対応。 	<ul style="list-style-type: none"> ・土岐市立総合病院との1病院化が具体化していく状況を踏まえ、それまでの間は、両病院間で体制が充実している診療科における相互協力を実施。
心筋梗塞等の 心血管疾患	<ul style="list-style-type: none"> ・循環器内科専門医により緊急検査を含め自院にて対応。 ・外科的手術は、他院との連携にて対応。 	<ul style="list-style-type: none"> ・同上
脳卒中	<ul style="list-style-type: none"> ・土岐市立総合病院の脳神経外科との連携にて対応。 	<ul style="list-style-type: none"> ・同上
救急医療	<ul style="list-style-type: none"> ・二次救急の役割を担っており、小児・周産期以外は全て受け入れる方針にて対応。 ・三次救急の場合は県立多治見病院へ依頼。 	<ul style="list-style-type: none"> ・同上
小児医療	<ul style="list-style-type: none"> ・小児科は非常勤医のため、県立多治見病院との連携にて対応。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小児・周産期等については、土岐市立総合病院と協力し、関連大学等に専門医の招聘を働きかける。
周産期医療	<ul style="list-style-type: none"> ・産婦人科は常勤医が1名のため、県立多治見病院との連携にて対応。 	<ul style="list-style-type: none"> ・同上

③4機能別の病床の変動

- ・高度急性期： 55床 → 未定
- ・急性期： 215床 → "
- ・計： 270床 → "

※一病院化までは現機能を維持する。

一病院化後については、周辺地域の医療・介護状況を踏まえ、瑞浪市と協議を行う。

5 市立恵那病院における検証結果について

◆対象病院における検証の進捗状況について

- ・2017年の新病院建設時に、将来の人口動態等を見据えて地域の医療機能を検討し、現在の病床機能・規模を決定した。
- ・新病院の運営実績及び今後の恵那市における医療需要の動向を検証しながら、地域の医療機能等のあり方を検討していく。
- ・厚労省分析領域（6領域）における現状及び今後の見込みは以下のとおり。

領域	現 状	今後の見込み、予定
がん	<ul style="list-style-type: none"> ・手術実績あり（消化器・乳腺） ・県立多治見病院、愛知がんセンター、名古屋大学附属病院、愛知医科大学病院（産婦人科）および中津川市民病院（泌尿器科）へ紹介。 ・術前・術後化学療法、緩和・在宅医療の対応は可能。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も同様の対応予定。 ・地域連携パスの更なる充実を図る。
心筋梗塞等の 心血管疾患	<ul style="list-style-type: none"> ・救急対応は不可であるため、名古屋徳洲会病院、県立多治見等へ搬送依頼。 ・なお、慢性期の対応は可能。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も同様の対応予定。 ・近隣の中津川市民病院と今後も連携について協議を実施する。
脳卒中	<ul style="list-style-type: none"> ・圏域の医療機関（中津川市民病院・土岐市立総合病院等）と連携。 ・なお、回復期の対応は可能。 	<ul style="list-style-type: none"> ・圏域の医療機関と連携し、回復期リハビリテーション病棟機能を充実し、急性期後の患者を受け入れる ・近隣の中津川市民病院と今後も連携について協議を実施する。
救急医療	<ul style="list-style-type: none"> ・当院は恵那市での二次救急の役割を担っている。また、隣接する中津川市の病院と輪番制で救急対応し、三次救急は県立多治見病院へ紹介。 ・病院敷地内のヘリポートを活用している。 ・救急患者（救急車）を積極的に受け入れている。 ・恵那・中津川消防救急隊との連携を密にしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も同様の対応予定。
小児医療	<ul style="list-style-type: none"> ・一般外来・入院診療（市内唯一の小児科入院可能医療機関）、新生児一般診療は可能。（集中治療を要する症例は県立多治見病院等へ紹介） 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も同様の対応予定。
周産期医療	<ul style="list-style-type: none"> ・当院は市内における唯一の分娩取扱施設であり、年300件弱の分娩実績あり。 ・ハイリスク分娩への対応は県立多治見病院等へ依頼。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も通常分娩への対応を継続する予定。ハイリスク分娩への対応は引き続き、県立多治見病院等と連携する。

※今後も必要に応じて中津川市民病院と協議

- ・現状の病床数及び2025年の病床数は以下のとおり。

急性期：148床 → 148床（± 0）
 回復期： 51床 → 51床（± 0）
 計：199床 → 199床（± 0）

※その後の人口減少・高齢化など予想を上回る場合、急性期病棟を回復期に移行できる設備としている。